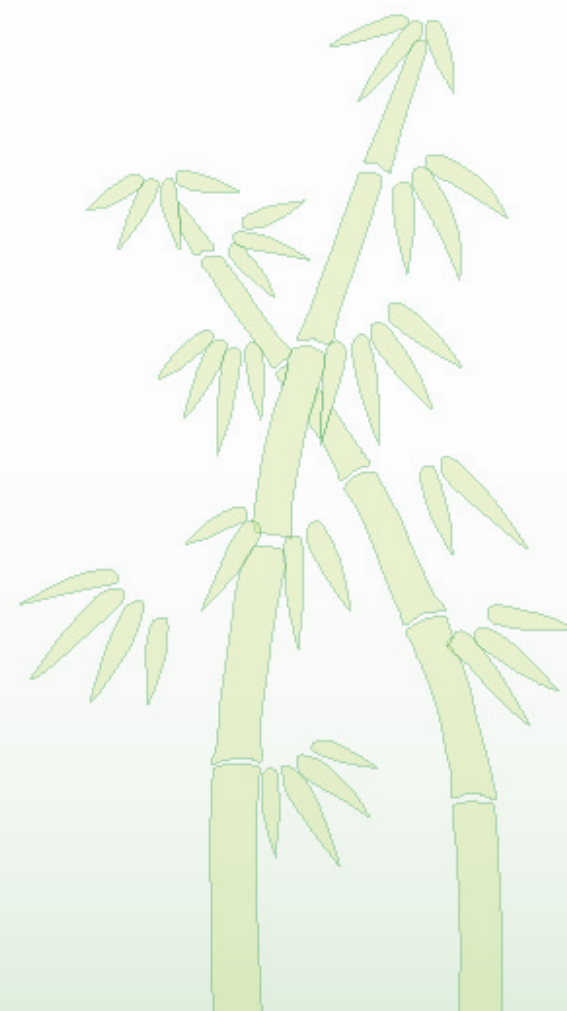


いまにつながる信仰と伝説

祈りの場

古くから祈りや願いの場として各地に神社やお寺がつくられました。その由来や祈る神仏などはちがいますが、それぞれ土地に根ざし地域の人びとに守られて

きました。このほかに道ばたなどでもいろいろな祈りを込めた^{せきひ}石碑を見ることができます。





くぜいじ なたこしうえまつ
弘誓寺(館腰植松)

こうぼうだいし 弘法大師が開いたと伝えられる古寺 こじ 境内には観音堂や日切地藏尊がある



んくしんしんしや たてこしらえまつ
館腰神社(館腰植松)
館腰の地名は神社名からとった



らいじんじゃ
雷神社(名取が丘)
はこづか
箱塚の神様「雷神」をまつて 雨乞いをした



しみずみね めでしまあずきしま
清水峯神社(愛島小豆島)

上は拝殿、下は江戸時代末に奉納された絵馬



どうそじんしゃ
 道祖神社(愛島笠島)
さ え の じんしゃ お お と り い もん ほんでん
 いまは佐倍乃神社 上は大鳥居と門、下は本殿



道ばたの石碑
愛島笠島の馬頭観音 ばとうくわんのん 道しるべもかねている

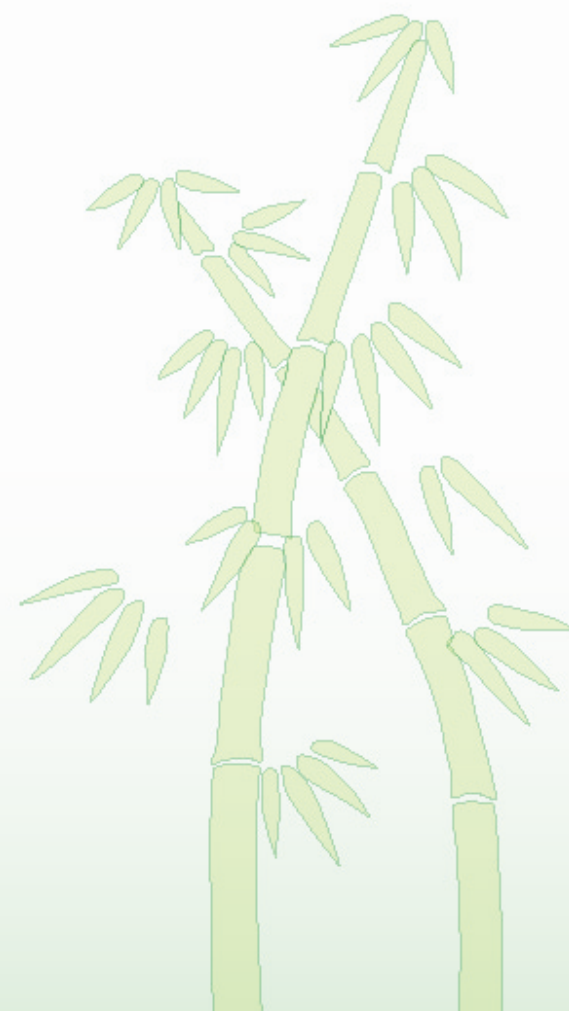


道ばたの石碑
愛島塩手の板碑 いたび

うけつがれてきた舞

各地の神社の祭りでは、かつては神に
ささげる神楽^{かぐら}がよく舞われていました。
その神楽が大切に受けつがれ、保存され
ているのが、愛島地区の『道祖神神楽^{どうそじんかぐら}』
と館腰地区の『花町神楽^{はなまちかぐら}』です。

両方とも笛や太鼓に合わせておごそかに
舞うのが特徴です。





どうぞじんかくら
道祖神神楽
神社の神楽殿で、年に数回舞われる

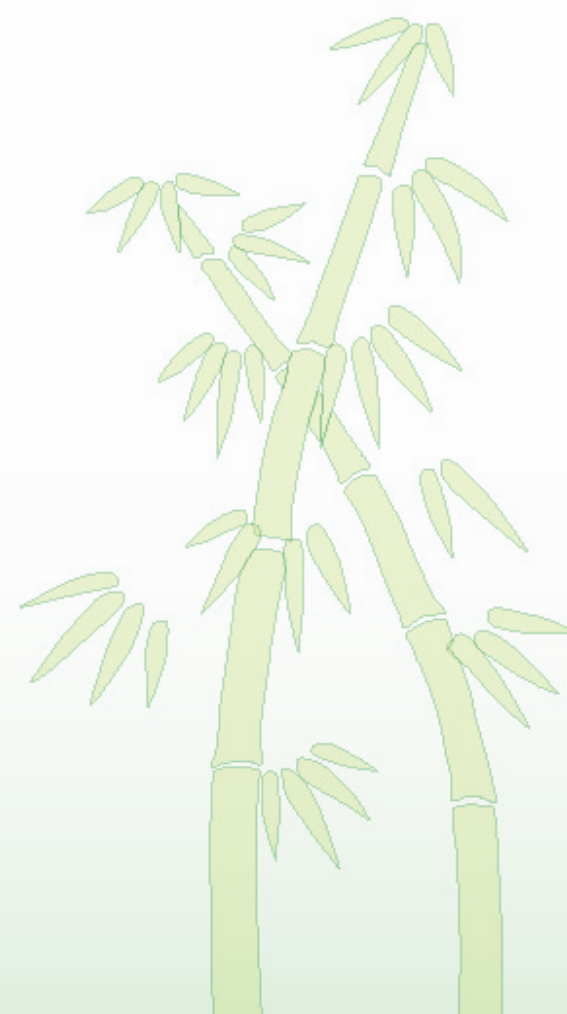


はなまちかくら
花町神楽
かつては飯野坂にあった鹿島神社の神楽だったが、
いまは館腰神社のお祭りで、仮設の舞台上で舞われる

語りつがれてきた伝説

口から耳へ、耳から口へと長く語り伝えられてきた伝説や昔話。愛島や館腰地区にも多くの伝説や物語が残されており、その由来や地名などのいわれをうかがうことができます。ここでは愛島地区に伝

かにおうものがたり
わる『蟹王物語』と、館腰地区に伝わる
かたは
『片葉のよし』を紹介します。



かにおうものがたり
蟹王物語

むかしむかし、智福院ちふくいんのとなりに大金持ちの農家があり、そこに氣だてのやさしい娘が使われておりました。娘は毎日、お寺の本堂のそばにある池でお米をとぐのですが、不思議なことにその時になると池にすむ蟹かにが集まってくるのです。それは氣のやさしい娘がお米をとぐたびに米つぶを少しまいて食べさせていたからです。

ある年のこと、娘が田んぼで草取りをしている人たちにお昼のお弁当をとだけようと、道を歩いて途中の弁天さまの前までくると、ハンサムな若い侍が立っていました。娘は礼をして通り過ぎようとしたら、「娘よ。その笠を貸してくれないか。」とことばをかけました。娘は「はい。どうぞ。」

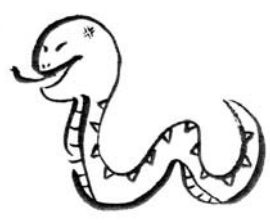
という侍に笠を渡し、田んぼに行きました。娘はお弁当をとけると、同じ道をもどって弁天さまのところまできました。でもさきほどの侍のすがたは見えず、貸した笠だけがぼつんと残されていました。娘はなにげなく笠を持ち上げてみたら、なんと一匹の大きな蛇がとぐろをまいて娘をじっと見つめているではありませんか。娘は腰がぬけるほどおどろき、おそろしくいてちもくさんに逃げました。すると逃げてても逃げてても蛇は追いかけてきます。娘は死にものぐるいで智福院の本堂に逃げ、そこにあったお経を入れる箱の中にかくれました。追ってきた蛇はその箱を何重にもぐるぐる巻きにしています。娘は絶体絶命です。

するとその時、池にいた蟹がぞろぞろとはい上がってきて、蛇の体をはさみでズタズタにかみ切り、殺してしまいました。娘は助かりました。弁天さまの前にいた侍は美しくやさしい娘にいつも恋していた蛇でした。蛇を殺した蟹は娘のいつもの愛情にこたえて命を救ったのです。

この智福院はもとの東街道ぞいにあり、娘がお米をといだ池はいまでもこのお寺に残っています。侍が立っていた弁天さまは愛島小学校の東にある田んぼの中にまつられていましたが、いまは別のお寺に移されています。

（猪股一夫「蟹王山物語」『郷土なとり』創刊号 を改変

挿絵は方言むかしばなし『名取ざっと昔』一より）



蟹王物語

愛島笠島を舞台にした物語 智福院に古くから伝わる



ちふくいん
智福院(愛島笠島)

かたは
片葉のよし

たてこしじんじゃ
館腰神社の西の田んぼのなかに、今では小さくなりましたが池があり、松が植えられていました。この池のほとりの小高い丘に、都（京都）から下ってきた夫婦が暮らしていました。

二人はとても仲良く、村人たちに京の織物や料理などを教えていましたので、だれから好かれていました。

ある日、夫は用事ができてどうしても都に出かけなければなりませんでした。当時、京へ上るといことは命がけでした。

夫は「必ず元気で帰って来るから、楽しみに待っていなさい。京のみやげを買ってくるから・・・」と言いのこして家を出たのですが、途中病気で死んでしまいました。

それを知らない妻は、一カ月、二カ月、一年、二年・・・と待ちわびながら、今日帰るか、明日帰るかと思風の音、雨のひびきにも耳をすましているうち、とうとうおばあさんになってしまいました。そして、とうとう待ちくたびれてこの池に身を投げて、悲しい最後をとげたのです。

それ以来、池に生えていたよしの葉が死んだおばあさんのためか全部南の方（京都）にばかり向いてしまい、また新しく出る葉も片方（かたほう）にばかり出るので、村人はこれを片葉のよしと呼んで、亡くなったおばあさんをしのんだそうです。

（名取市観光協会発行『なとりむかしばなし』より）



片葉のよし

館腰植松を舞台にした物語 いまも一本松とほこらがあるが、かつてはまわりに池があった



池のほとりの松

農村から住宅地へ～ 大きく変わる風景

長く続いてきた農村風景

なだらかな丘とそのまわりの平地。愛島から館腰地区あたりの人びとは古くからこの地で田や畑の仕事をして生活してきました。そのような農業を中心とした

くらしが長く続き、昭和 30 年代までは各地に農村風景が広がっていました。愛

島地区の塩手し お てにあり、江戸時代から受け

継がれてきた旧中沢家住宅も、当時はこのあたりで見られた代表的な農家でした。

いまは十三塚公園内に移築、復元されています。



年代

時代

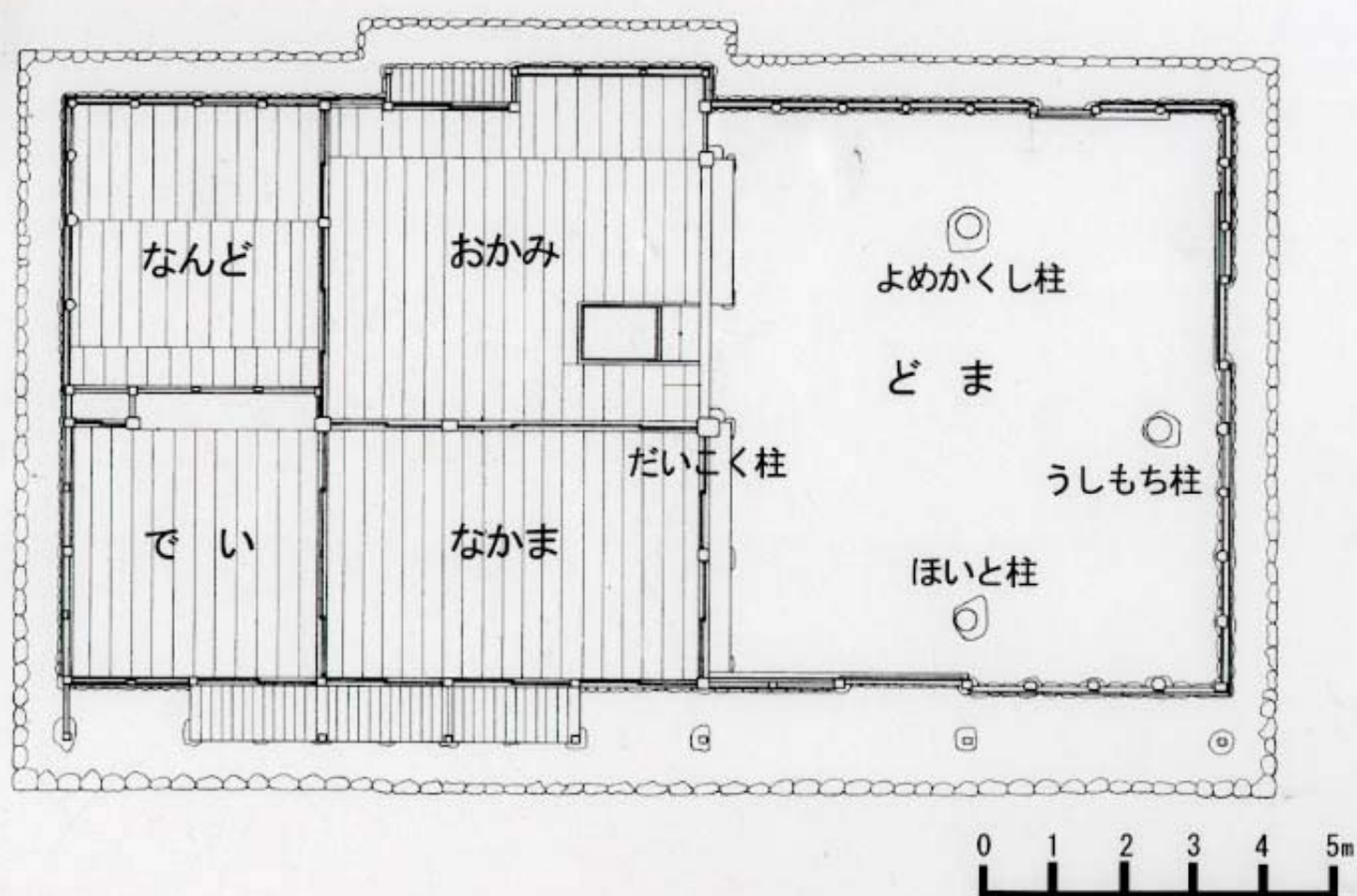
おもなできごと おもな遺跡と人

現在	約500年前	約1千年前	約2千年前	約1万年前	約2万年前
2000	1500	1000	500	AD / BC	

平成 昭和 大正 明治	江戸 安土 桃山 戦国 室町 鎌倉	平安	奈良	飛鳥	古墳	弥生	縄文	旧石器
近代国家へ 農村から住宅地へ	奥州街道がつくられる	山ぞいの東街道にぎわう	税をおさめる農民のくらし	東山道がつくられる	大きなお墓をつくる	米づくりをはじめめる	自然食のくらし	氷河時代を生きる
松尾芭蕉 旧中沢家住宅 道祖神路 正岡子規	宗久	西行	前野田東遺跡 笠島廃寺跡 道祖神社 藤原実方のお墓	飯野坂古墳群 雷神山古墳 十三塚古墳 名取大塚山古墳	泉遺跡	十三塚遺跡	大木戸貝塚 宇賀崎貝塚 泉遺跡	野田山遺跡



重要文化財旧中沢家住宅平面図



旧中沢家と家の間取り

屋根はかやぶきで、中が田の字型という
間取りをしているのが特徴

住宅団地の建設

この地区でも昭和 30 年ころから住宅地の建設が始まりました。中でもこれまでの風景を大きく変えたのが昭和 39 年から建設が始まった名取が丘^{なとりおか}団地でした。さらにその後、平成 9 年には愛島台^{めでしまだい}団地

が、平成 14 年からは愛島東部地区に愛^{あい}の杜^{もり}団地と愛島郷^{めでしまのさと}団地がそれぞれ建設され、それまでの畑地や山林は一大住宅団地に生まれ変わりました。これらの団地は今も住宅建設が続いています。



愛島・名取が丘・館腰地区付近の住宅団地建設の歩み

住宅団地名	建設年	当初の戸数	現在の戸数
谷津山住宅	昭和28・29年	50	(現飯野坂七丁目)
笠島住宅	昭和30年	10	(現愛島笠島字学市)
箱塚住宅(市営住宅)	昭和32年～昭和38年	147	773 (箱塚1・2丁目)
名取が丘団地 (名取ニュータウン)	昭和38年～昭和42年	2,091	1,928 (名取が丘1～6丁目)
愛島台団地	平成4年～平成9年		593 (愛島台2・6丁目)
愛の杜団地	平成9年～平成14年		651 (愛の杜1・2丁目)
愛島郷団地	平成11年～平成15年		883 (愛島道祖神・愛島笠島東・愛島塩手南)

(現在の戸数は平成26年8月末での数字　愛島郷団地には従来からの戸数も含む)



住宅団地マップ

大きく突きでたなだらかな丘の大部分が住宅地になった



名取が丘団地のいま・むかし

上は団地ができる前の昭和 30 年代の風景　すでに谷津山住宅ができている　両方とも雷神山古墳から撮影



愛の杜団地のいま・むかし

上は団地ができる前の昭和 40 年代の風景 両方とも同じ場所から撮影。

〈発掘調査速報展〉

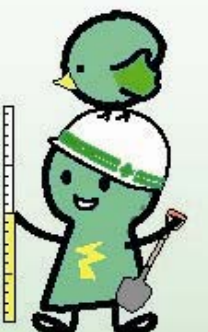
最新の発掘調査成果

名取市内には、今から約 2 万年前頃（後期旧石器時代）～150 年前頃（江戸時代）にかけての、200 カ所にもおよぶ^{いせき}遺跡があります。

遺跡は、郷土の歴史を知るうえで欠か

せないもので、一度こわれてしまうと元に戻すことができないため、工事等を行う前に地下の遺跡を調べ、記録をのこして後世へ伝えて行く必要があります。そのための作業が^{はくつちょうさ}発掘調査です。

ここでは、昨年から今年にかけて実施された最新の発掘調査の成果をご紹介します。



雷神君といつもいっしょにいる「こづ」です。

雷神君は名取市のことをいろいろ調べるのが好きみたい。いろいろほくに教えてくれるんだ。

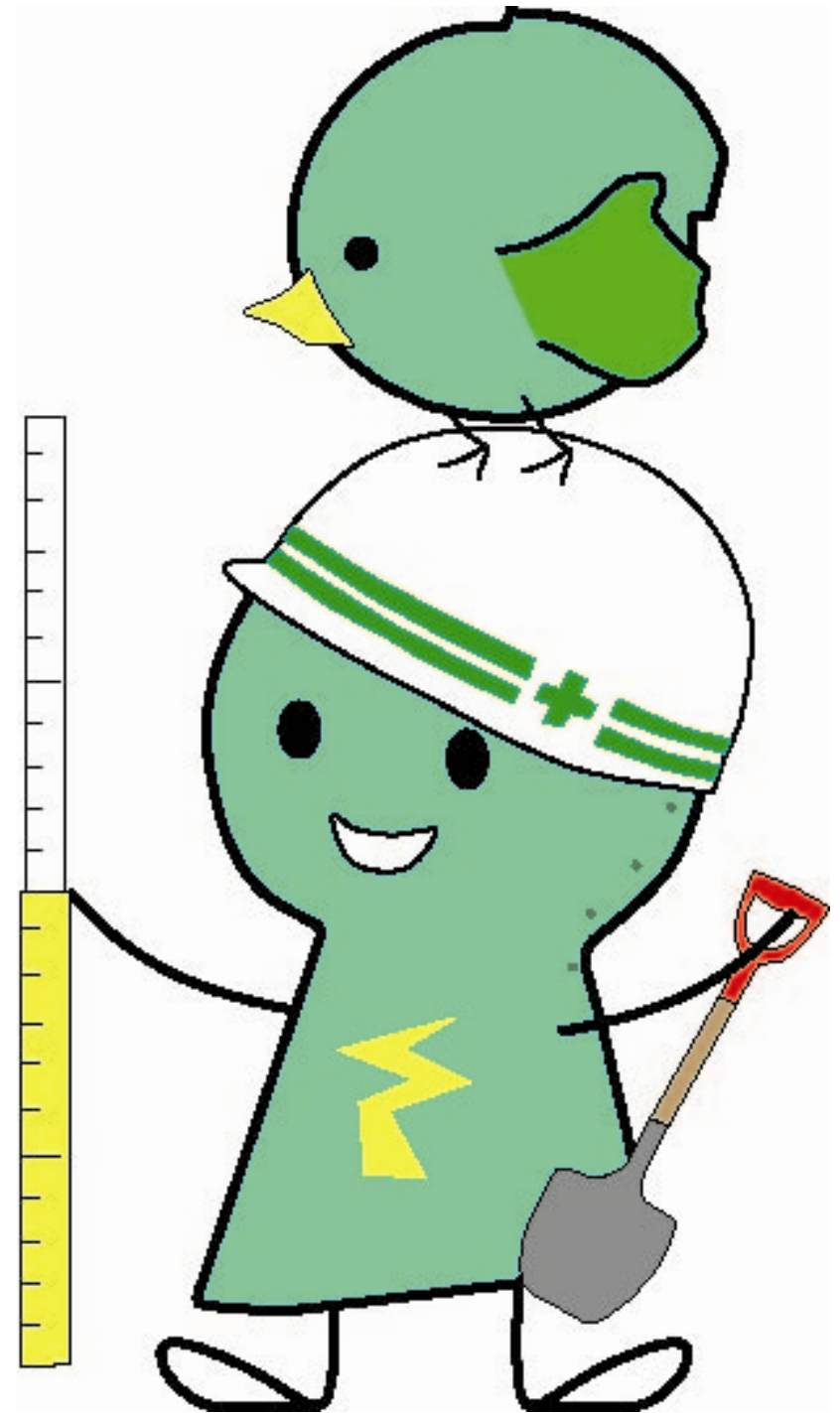
はじめまして。ほくは雷神っていいます。

ほくが生まれたのは今から 1700 年くらい前なの。

たくさんの方が、いっしょうけんめい、ほくのことをつくってくれて、そして、長い間、大切に見守ってくれているおかげで、今、ここにいるんだ。

ほくのことを大事にしてくれる名取のみんなのことが大好きです。だから、みんなのことを知るためにも、もっと名取のことをくわしく知りたいんだ。

こづといっしょに調べたことをみんなに紹介するね。



＜原遺跡＞

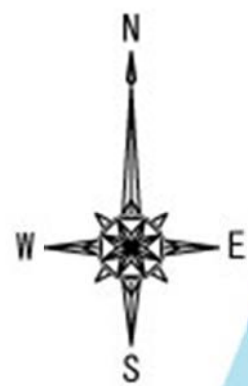
「河川の氾濫のあと」

昨年の調査では、弥生時代以降に起こった河川の^{はんらん}氾濫の^{こんせき}痕跡が見つかりました。その土の中には、いろいろな模様が描かれた弥生土器^{やよいどき}や、石の矢じりが含まれていました。

^{はら}原遺跡ではこれまでの調査でも、氾濫の跡にできたくぼ地に大量の弥生土器が捨てられたゴミ捨て場や、弥生時代のお墓が発見されており、昔から多くの人々が暮らしてきたことがわかっています。



名取市



仙台市

JR南仙台駅

八王寺屋敷跡

原遺跡

大館山



樽水ダム

八幡遺跡

JR名取駅

町裏遺跡

市役所

杜せきのした駅

美田園駅

仙北田舎へのセト鉄道

JR館腰駅

仙台空港駅

仙台空港

太平洋

岩沼市

東北新幹線

東北本線

名取市の主な文化財

発掘調査速報で取り上げる遺跡



河川の氾濫によって埋まった土^{はんらん}



出土した弥生土器^{やよいとぎ} 鉢^{はち}

＜八王寺屋敷跡＞

「竪穴住居でのくらし」

古墳時代中ごろの^{た て あ な じ ゅ う き ょ}竪穴住居の一部が見つかりました。この住居跡の壁にはカマドが作られており、煙を出す煙突代わりの穴が外に延びていました。カマドの中や近くからは^{に た}煮炊きに使われた^{か め}甕がみつ

かっています。

カマドは真っ赤に焼けて固くなっており、日常的に火が使われていたようです。

カマドの左側から見つかった穴は、食事に必要なものをたくわえておくための穴と思われます。



名取市



仙台市

JR南仙台駅

八王寺屋敷跡

原遺跡

大館山

樽水ダム

八幡遺跡

JR名取駅

町裏遺跡

市役所

杜せきのした駅

美田園駅

仙和伊勢ノへヤノ鉄道

JR館腰駅

仙台空港駅

仙台空港

太平洋

岩沼市

東北新幹線

東北本線

名取市の主な文化財

発掘調査速報で取り上げる遺跡



たてあなじゅうきょあと
竪穴住居跡



カマドから出土した土師器
はじき かも 甕

＜町裏遺跡＞

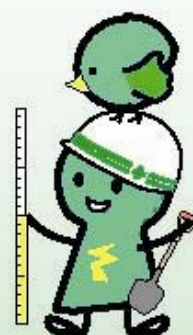
「増田の街の近くから

古代のムラが・・・」

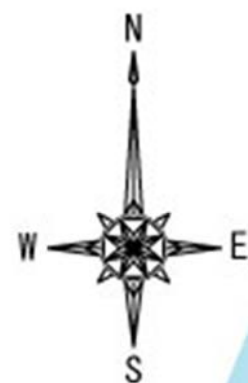
地面を掘りくぼめ、屋根をかけた半地下式の建物を「たてあなじゅうきょ竪穴住居」と呼んでいます。今回の調査では、古墳時代と平安時代の竪穴住居と当時の人たちが使っていた土器がみつかりました。

平成 16 年に隣の場所を調査した時にも同じ時期の住居が多く見つかっていることから、同じ場所に集団で生活する「ムラ」があった可能性があります。

増田の村の御先祖様たちかもしれませんね。



名取市



仙台市

JR南仙台駅

大館山

樽水ダム

原遺跡

八王寺屋敷跡

八幡遺跡

JR名取駅

町裏遺跡

市役所

杜せきのした駅

美田園駅

仙和伊勢ノへヤス鉄道

JR館腰駅

仙台空港駅

仙台空港

太平洋

岩沼市

東北新幹線

東北本線

名取市の主な文化財

発掘調査速報で取り上げる遺跡



たてあなじゅうきょあと
竪穴住居跡



たてあなじゅうきょあと
竪穴住居跡出土 土師器 坏

＜八幡遺跡＞

「八幡に住んでいた人々」

はちまん
八幡遺跡では、今までにも古墳時代から平安時代の人々の生活の跡が多く見つかっています。今回も古墳時代のたてあなじゅう竪穴住居や平安時代のほったてばしらたてもの掘立柱建物や井戸、当時の人々が使っていた土器などが多く見つ

かりました。大勢の人たちがこの近くでくらしていたことがわかりました。

特に竪穴住居からは、土器がす据え付けられたままや、カマドの側に置かれたままで見つかっていて、どのように土器が使われていたのかも知ることができます。



名取市



仙台市

JR南仙台駅

八王寺屋敷跡

原遺跡

大館山

樽水ダム

八幡遺跡

町裏遺跡

JR名取駅

市役所

杜せきの
した駅

美田園駅

仙和野地へのセト鉄道

JR館腰駅

仙台
空港駅

仙台空港

太平洋

岩沼市

東北新幹線

東北本線

名取市の主な文化財

発掘調査速報で取り上げる遺跡



調査区全景 1



調査区全景 2



たてあなじゅうきょあと
土器が散らばる 居跡



たてあなじゅうきょあと
土器が置かれたままの 居跡



住宅の底面に置かれた土師器 はじき 壺 つぼ



住宅の底面に置かれた土器



たてあなじゅうきょあと
竪穴住居跡出土 土師器 甕

